

# 予防接種スケジュール

大切な子どもをVPD(ワクチンで防げる病気)から守るためには、接種できる時期になったらできるだけベストのタイミングで、忘れずに予防接種を受けることが重要です。このスケジュールはNPO法人 VPDを知って、子どもを守ろうの会によるもっとも早期に免疫をつけるための提案です。お子さまの予防接種に関しては、地域ごとの接種方法やVPDの流行状況に応じて、かかりつけ医と相談のうえスケジュールを立てましょう。

ワクチン名	接種済み <input checked="" type="checkbox"/>	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	(満年齢)
<b>不活化ワクチン</b> B型肝炎 (母子感染予防を除く) <b>定期</b>	<input type="checkbox"/>		①→②		③											
<b>生ワクチン</b> ロタウイルス <b>任意</b>	<input type="checkbox"/>		①→②		③											
<b>不活化ワクチン</b> ヒブ <b>定期</b>	<input type="checkbox"/>		①→②→③													
<b>不活化ワクチン</b> 小児用肺炎球菌 <b>定期</b>	<input type="checkbox"/>		①→②→③													
<b>不活化ワクチン</b> 四種混合 (DPT-IPV) <b>定期</b>	<input type="checkbox"/>		①→②→③													
<b>生ワクチン</b> BCG <b>定期</b>	<input type="checkbox"/>			①												
<b>生ワクチン</b> MR (麻しん風しん混合) <b>定期</b>	<input type="checkbox"/>															
<b>生ワクチン</b> 水痘 (みずぼうそう) <b>定期</b>	<input type="checkbox"/>															
<b>生ワクチン</b> おたふくかぜ <b>任意</b>	<input type="checkbox"/>															
<b>不活化ワクチン</b> 日本脳炎 <b>定期</b>	<input type="checkbox"/>															
<b>不活化ワクチン</b> インフルエンザ <b>任意</b>	毎秋															
<b>不活化ワクチン</b> A型肝炎 <b>任意</b>	<input type="checkbox"/>															
<b>不活化ワクチン</b> HPV (ヒトパピローマウイルス) <b>定期</b>	<input type="checkbox"/>															
<b>不活化ワクチン</b> 髄膜炎菌 <b>任意</b>	<input type="checkbox"/>															

0歳のうちに3回接種が必要。3回目は2回目から4-5か月の間隔をあけて受けます。1歳以上でも未接種の場合は、できるだけ早く受けることをおすすめします。(任意接種)

ロタウイルスワクチンには、1価ワクチンと5価ワクチンがあります。遅くとも生後14週6日までに接種を開始し、それぞれの必要接種回数を受けましょう。

ロタウイルス・ヒブ・小児用肺炎球菌・四種混合の必要接種回数を早期に完了するには、同時接種で受けることが重要です。

百日せきの感染予防の目的で1回受けます。(任意接種) WHOもこの時期の追加接種を推奨しています。

二種混合 (DT) : 11歳で追加接種 (接種対象11-12歳)

1歳の誕生日が来たら同時接種で受けましょう。ヒブ・小児用肺炎球菌・四種混合・MR・水痘・おたふくかぜの6本を同時接種で受けることもできます。

集団接種の地域では、同時接種で受けられません。

幼稚園、保育園の年長の4月~6月がおすすめ

追加接種は、初回接種から3か月の間隔をあけて受けましょう。

標準的には3歳から接種しますが、生後6か月から受けられます。

毎年、10月から11月ごろに接種しましょう。

9歳で追加接種 (接種対象9-12歳)

1歳から受けられます。1回目の2-4週後に2回目、その約半年後に3回目を接種します。

中学1年で接種開始 (接種対象: 小6から高1の女子) 2価と4価があり、ワクチンによってスケジュールが異なります。

2歳から受けられます。海外留学や高校や大学で寮生活をする人などは接種がすすめられます。

**不活化ワクチン** 定期 定められた期間内で受ける場合は原則として無料(公費負担)。      定期予防接種の対象年齢 ↔ おすすめの接種時期(数字は接種回数)

**生ワクチン** 任意 多くは有料(自己負担)。自治体によっては公費助成があります。任意接種ワクチンの必要性は定期接種ワクチンと変わりません。      任意接種の接種できる年齢 ●次にほかの種類のワクチンが接種できるのは、不活化ワクチン接種後は1週間後の同じ曜日、生ワクチン接種後は4週間後の同じ曜日からです。

同時接種: 同時に複数のワクチンを接種することができます。安全性は単独でワクチンを接種した場合と変わりません。 国や日本小児科学会も乳幼児の接種部位として太もも(大腿前外側部)も推奨しています。詳しくはかかりつけ医にご相談ください。 **詳しい情報は <http://www.know-vpd.jp/> VPD 検索**